

經典餘師

詩經

一

11

1029

30

口 11
葉 1029
卷 30



之四

柏舟二章

汎汎彼柏舟彼中河
在鬻髮實維我儀
死矢靡他靡母也
天只不諒人只
不諒

經曲、余市

詩經卷之二

○ 鄘一之四

前出也 衛

柏舟二章

衛世子共伯死之妻共姜自義不嫁

數の父母との年少と憐れ取奪て他へ嫁せ
めんとしと共姜矢とて他へ心る

一めり 諒

汎彼柏舟在彼中河鬻髮彼兩髦實維

我儀之死矢靡他母也天只不諒人

只 嫁身作法の堅い水と離るが如く

河の中より兩髦と夫とよりていふ男が
父母の世に在りていふ幼少の時の凶髪と割取て

詩經卷之二

一

君子偕老三章

君子偕老三章
副笄六珈
委委佗佗
如山
如河
象服是宜
子之淑不
云ふ之と如何

君子偕老三章

夫死すば未亡人として居て僅ふ世に在
るを以て後室の如くありて居ることを
美しき衣服を以て似合ふことなり

君子偕老三章副笄六珈委委佗佗如山

如河象服是宜子之淑不淑云如之何

先祖父母の神明まつ奉つるに然る衣服は
宜ふに稱するに法に淑く如何とも云ふ
ことなり副笄六珈の冠なり笄は掛くこと
六の如く加ふことなり委委佗佗と山河の
大なる自然の如く象服と云ふ衣服なり

玼兮玼兮其之翟也鬢髮如雲不屑

也玉之瑱也象之掃也揚且之皙也胡然
而天也胡然而帝也

瑳兮瑳兮其之展也縹緼是繼袿也子之清揚
揚且之顏也展如之人兮邦之媛也

玼兮玼兮其之翟也鬢髮如雲不屑

也玉之瑱也象之掃也揚且之皙也

也胡然而天也胡然而帝也

瑳兮瑳兮其之展也縹緼是繼袿也子之清揚
揚且之顏也展如之人兮邦之媛也

揚且之顏也展如之人兮邦之媛也

鵲之奔奔（鳥の飛ぶ）鵲之疆疆（鳥の飛ぶ）

鵲之奔奔（鳥の飛ぶ）鵲之疆疆（鳥の飛ぶ）

鵲之奔奔（鳥の飛ぶ）鵲之疆疆（鳥の飛ぶ）

定之方中三章

鵲之奔奔鵲之疆疆人之無良我以

為兄（鳥の飛ぶ）鵲之疆疆鵲之奔奔

人之無良我以為君（鳥の飛ぶ）鵲之疆疆鵲之奔奔

定之方中三章（鳥の飛ぶ）鵲之疆疆鵲之奔奔

定之方中三章（鳥の飛ぶ）鵲之疆疆鵲之奔奔

定之方中三章（鳥の飛ぶ）鵲之疆疆鵲之奔奔

定之方中三章（鳥の飛ぶ）鵲之疆疆鵲之奔奔

定之方中三章（鳥の飛ぶ）鵲之疆疆鵲之奔奔

定之方中三章（鳥の飛ぶ）鵲之疆疆鵲之奔奔

定之方中三章（鳥の飛ぶ）鵲之疆疆鵲之奔奔

定之方中三章（鳥の飛ぶ）鵲之疆疆鵲之奔奔

定之方中三章（鳥の飛ぶ）鵲之疆疆鵲之奔奔

定之方中三章（鳥の飛ぶ）鵲之疆疆鵲之奔奔

定之方中三章（鳥の飛ぶ）鵲之疆疆鵲之奔奔

定之方中三章（鳥の飛ぶ）鵲之疆疆鵲之奔奔

定之方中三章（鳥の飛ぶ）鵲之疆疆鵲之奔奔

定之方中三章（鳥の飛ぶ）鵲之疆疆鵲之奔奔

其言終焉允臧

靈雨既零

彼信人言命
星言風駕說
桑田
說直也
心塞淵
三千

蠨蛸三章

其言終焉允臧

虛也升て楚の跡なり

堂の邑と望し京の下の地之美と

終焉と臧と

既命彼信人星言風駕說桑田

匪直也人秉心塞淵騶牝三千

騶の民の治術と物と繁昌と馬牛も騶に

わらわら信人車駕と掌する

騶の民の治術と物と繁昌と馬牛も騶に

騶の民の治術と物と繁昌と馬牛も騶に

蠨蛸在東莫之敢指女子有行遠父

母兄弟

朝齊于西宗朝其雨

子有行遠兄弟父母

乃如之人也懷昏姻也大無信也不

知命也

相鼠三章

相鼠三章

相鼠三章

于旄三章

存生て何^{なん}人^{ひと}を儀^ぎなくいせよ
○相鼠有

齒人而無止人而無止不死何俟

手と以て齒と撫つて浴ふ如きなり人にもする此は
みろりやう正しくいふべきことと僕といふ上の心なり

相鼠有體人而無禮人而無禮胡不

遘死
禮體義
身體と鼠の體あり人の
義ありたところなり
づれも初句の

于旄三章

文公の「文徳と治ちとと徳と
好道とのたつととりり故ゆに大

夫の輩は賢者の郊外に住居してゐるところや
すゝ道と聞くと賛美と云ふ

子子ス于旄マウ在浚ス之郊ノ素絲ソ紕キ之良馬ノ

四之彼姝者。何以異之。
ス
文ルビキ
テカア
大大夫の從者班
死死と云ふなり

中も子々に高きゆりへ薙の薙于るり浚とらひ
村の賢者わりたりと知て來至しるるり薙帛の

間と素糸と以て紐つなむむををううりりなり大だい夫ふうの車くるまとと良馬りょうば四匹よっぴとととらひひととありあり彼妹かのい美み者ものハ賢けん

春と指てりこころの敗者の心は徳とたふそは
我とうやまふこれに報に何と以てて昇人や仁

儀の直と以てまぶしとを鹿の牛の尾と
 旌ぶしは隙こまゆふくふふなり

○子

子干旗在浚之都素絲組之良馬五

之彼姝者子。何以予之。子子子旌。

子子く 千鹿
浚之郊に在素
絲之と紐と良
馬之と四と
彼妹者へ子何
と以て之を界
あ

子子^くなる^る干^{かん}旗^き
 浚^{しゅん}之^の都^とは^は在^あ素^そ
 絲^し之^の組^{ぐみ}も良^よ
 駟^し之^のと五^ごと
 彼^か珠^{しゆ}者^{もの}の^の子^こ何^{いかん}
 と以^もて之^のは^は予^よ
 人^{ひと}
 子^こ子^こなる^る干^{かん}旗^き
 浚^{しゅん}之^の城^{じやう}は^は在^あ素^そ

終之祝良馬之六之彼妹者子何と以之告

載馳四章

載馳驅歸言衛侯驅馬悠悠言至於漕大夫跋涉我心則憂

既我嘉不能旋反視爾不臧我思遠不既我嘉不能旋濟視我思悶不

彼阿丘陟言其蟲與采女子善懷亦各

在浚之城素絲祝之良馬六之彼妹者子何以告之

載馳四章

載馳載驅歸言衛侯驅馬悠悠言至於漕大夫跋涉我心則憂

既我嘉不能旋反視爾不臧我思遠不既我嘉不能旋濟視我思悶不

行有許人之と
充て衆擇や
且狂

尤之衆穢且狂

其麥控于大邦。誰因誰極。太夫君子。
無我有元。百爾所思。不如我所之。

と出ては、わがの田野と行なひて、
 こゝろをとり、此とこゝろに、つめて、我
 のすくふれ、もののうれ、くど、
 告め、ものと、おの、下、誰、因、より、誰、の、人、の、と、極、
 や、必、ど、我、國、の、大、夫、群、子、の、衆、輩、我、と、
 こゝろ、心、に、爾、こゝろ、わ、つ、く、と、我、こゝろ、思、愿、と、
 こゝろ、こゝろ、必、竟、こゝろ、我、こゝろ、潜、へ、
 こゝろ、こゝろ、之、と、如、こゝろ、す、と、こゝろ、

○衛一之五

淇奥三章

淇奥二章

周の天子幽王の乱の時、衛の武公京都と鎮守をたてり

切なりとんより、衛の武公は賢徳の誉れありけり。徳を以て国を治り人々との徳となしやうとす。

瞻彼淇奥綠竹猗猗有匪君子如切ルナ

如カ磋ハ
如カ琢ハ
如ハ磨シ
瑟セ兮タリ
憫ミ兮タリ
赫キョク兮タリ
咀ス兮タリ

有匪君子終不可諼兮

けの奥と瞻と緑の色倚りて竹直うて
 色ふぬとのちゆふ君子の徳は比しものなり
 如切如磋と角細ユと角解の初めく切
 てられしと磋とぎしと道異たりとふく

衛一之五
淇奥三章

彼淇の奥と瞻
緑竹猗猗
匪君子有切
如磋如琢
如磨如瑟
間兮赫兮咥兮
匪君子有終
護可レ不レ兮

彼淇之奥と瞻
 緑竹青青と
 有充耳琇瑩會
 弁星の如く瑟
 今個々赫々喧
 兮匪君子有
 終不可諼兮
 不兮

○瞻彼淇奥緑竹如簣有匪
 君子如金如錫如圭如璧實兮綽兮
 終不可諼兮
 青々緑の奥武公の弁の皮
 今個々赫々喧々有匪君子
 終不可諼兮
 青々緑の奥武公の弁の皮
 今個々赫々喧々有匪君子
 終不可諼兮

如圭の如く
 璧の如く寛兮
 綽兮荷重較兮
 善戲謔兮
 戲と為不兮

荷重較兮善戲謔兮不爲虐兮
 組の如く緑竹の如く金錫圭璧の如く
 綽兮荷重較兮
 善戲謔兮
 戲と為不兮

考槃三章
 在澗碩人之寬獨
 寐言永矢
 弗諼

考槃三章
 在澗碩人之寬獨寐言永矢
 弗諼
 賢者の容貞碩人として心寛く静なり澗に
 槃を相するものと考て世の望として永矢

碩人四章

碩人其頤いさみ頤いさみ頤いさみ
錦にしきと衣きて褰衣せんい

齊侯之子衛侯之妻東宮之妹邢侯之姨譚公之維私

手ハ柔黄の如く
唇ハ凝脂の如く
頰ハ紅蠟の如く
齒ハ瓊玉の如く
犀の如く
螭首の如く
蛾眉巧笑倩兮
美目盼兮

考槃在阿碩人之適獨寐寤歌永矢
弗過
考槃在陸碩人之軸獨寐寤宿永矢
弗告

碩人四章

爵の莊、妻の容姿よく、
 子よく、賢徳なりて薄

命いのちををししとと上うるるももつつてて如ごとくく人ひと々々
閑い惜ひてておおひひままををししててままごご心こころををすすうう

碩人其頡衣錦聚衣齊侯之子衛侯

之事東宮之妹邢侯之姨譚公維私

其妻い元もとより貴高たか家いへに坐てする石の錦の衣服の
 入るい襦じゆ袢たん殊ことに粧飾しやくをおくゆく錦の衣服の
 東宮ひがしのみや得臥とくふしの弟あにと妹より衛公ゑいこうの妻いづとよりこれ
 小こ恥ち侯こうのたらしい妹よりとより
 譚公たんこうの妹よりとよりとより
 ○手如てに柔な黄わう

膚如凝脂領如蝤蛸齒如瓠犀螭首
蛾眉巧笑倩兮美目盼兮

さへたとりし脂の獸のうづらひて寒は疑ふらん
ろくつやあるうちう蝸蟻の虫の白くのびくをりて
しちの蠟すどよたふの蠟の犀の放りて並に
まゝ一齒よたふの蠟ハマるう額の廣うり娥の虫
中よく首尾をきゆる眉とりて実う巧
脣引く目の明分ちり美艶さしと此詩一徳

氓之蚩蚩抱布貿絲匪來貿絲來即

て絲と買ふ
匪來我
即て謀子
送其子
頃立至我
期と忽つ
子良媒無將子
怒無秋以
て期爲ん

我謀送子涉淇至于頓丘匪我愆期
子無良媒將子無怒秋以爲期
○乘彼坳垣以望復
關不見復關泣涕漣漣既見復關載
笑載言爾卜爾筮體無咎言以爾車

爾卜の卜爾の
筮體の筮の言
無爾の車と以
て來れ我賄と
以て遷え

來以我賄遷
○桑之末落其葉沃若于嗟鳩
兮無食桑甚于嗟女兮無與士耽士
之耽兮猶可說也女之耽兮不可說

桑之末落其葉沃若
于嗟鳩兮桑の
甚と食し無れ
于嗟女兮士與
之耽兮猶可
也女之耽兮
不可也

也
○桑之甚の落りたる葉色も沃若
也
今無食桑甚于嗟女兮無與士耽士
之耽兮猶可說也女之耽兮不可說

竹筭四章

泉源いづみげん左ひだり在あ淇き
水みづ右みぎ在あ女子おんな
行いと有あ父ちち母はは兄あに
弟にい遠とほく

淇水右_ニ在泉
源左_ニ在巧笑
之璦佩玉之儺

其水漣漣
檣揖松舟駕之

經典餘師

偕老同穴のしるしと約せし老及んて
 我忍ふなりぬ淇水よ岸より懸る洋より行つる
 流るるもの道理のなみちなる上總角すの宴を
 せんばひと笑言し曇々るるよりくくん結ぐ
 信誓すや且々なりしなりし然るや心
 反するぞうん思ふ不しなりもはや是を
 已焉哉るや抑々るる恥んん
 思ふしるるやいなるるる

竹竿四章

衛の国の女子他所へ嫁して
後古郷と云ふ父母と歸る

寧ろ歸せん心の城なりと
討つらう

簞簞竹竿以釣于淇豈不冉思遠莫

致之
以て淇水に釣と垂んと欲とすといひ起て

故郷よりよほど我ういふに衛とありよとあるを
 衛といふをいふ人といふ人といふ人
 や途遠がゆふ我思と致
 といふといふといふ

○泉源在左淇

水在右。女子有行。遠父母兄弟。

激泉

も淇水も皆辭の国より流るる二の水
 んて左と右とより如く女子の身が、自田つ
 めものゝうへに嫁して行とらん
 父母兄弟と遠よりよりとて
 淇水在

右泉源在左巧笑之瑳佩玉之儺

今上と同意して久しく歸^{かへ}りて得^とる時^{とき}の如く友とて
 昔の遊^{あそび}の如くでんそのうち巧^{うまい}笑^{わら}ひの如く
 と玉^{たま}へ腰^{こし}に佩^ひたるものにて行^ゆ歩^ほは節^{ふし}度^どなり時^{とき}に
 かくくひすしりる
 すまじと難^{がた}うとて
 ○淇水悠悠檜楫松

詩經卷之二

100

て言「出遊」
以「我憂」寫

芄蘭二章

芄蘭之支童子
佩則則
我知容兮
遂兮帶兮
垂兮悵兮

舟駕三山遊以寫我憂

舟駕三山遊以寫我憂
舟駕三山遊以寫我憂
舟駕三山遊以寫我憂

芄蘭二章

芄蘭之支童子
佩則則
我知容兮
遂兮帶兮
垂兮悵兮

芄蘭之支童子
佩則則
我知容兮
遂兮帶兮
垂兮悵兮

我知容兮
遂兮帶兮
垂兮悵兮

芄蘭之支童子
佩則則
我知容兮
遂兮帶兮
垂兮悵兮

我知容兮
遂兮帶兮
垂兮悵兮

河廣二章

誰謂河廣
一葦杭之
誰謂宋遠
跂予

河廣二章

誰謂河廣
一葦杭之
誰謂宋遠
跂予

誰謂河廣
一葦杭之
誰謂宋遠
跂予

遠謂跋也
予之望也

誰謂河廣
謂曾也

容不誰謂
謂曾也

謂宋遠曾
謂曾也

伯兮四章

伯兮
之祭也
執王
前驅

望之

近來宋の国へゆくとき問ふる子に

誰謂河廣曾不容刀誰謂宋遠曾不宗朝

謂宋遠曾不宗朝

謂宋遠曾不宗朝

伯兮四章

婦人其夫の軍に

伯兮今揭兮邦之桀兮伯也執父為王

前驅

伯兮今揭兮邦之桀兮伯也執父為王

自伯之東首如飛蓬豈無膏沐誰

適為容

自伯之東首如飛蓬豈無膏沐誰適為容

其雨其雨

思伯甘心首疾

其雨其雨果果出日願言

馬得諛草

言思伯使我心悔

言思伯使我心悔

果

を依て母と北堂と
つてもいふなり

有狐三章

有狐三章

狐人と妖媚けくものあり
よ姫よけくものあり心の裏か

の女にけり居の邦とて四偶と
さうんともあり詩あり

有狐綏綏在彼淇梁心之憂美之子

無裳

むつらの狐けりて綏々として淇水の石梁
よはらやうふ心の憂美と一念のうけ

前後來のすめめのものこととこの人をも獨身
けくものあり衣裳もけくものあり

我といふ心けくものあり
有狐綏綏在彼

淇厲心之憂美之子無帶
有狐綏

綏在彼淇側心之憂美之子無服
厲

狐有綏綏
彼淇梁心之憂美之子裳
無
狐有綏綏
彼淇厲心之憂美之子帶
無
狐有綏綏
彼淇側心之憂美之子服
無

ふつと側いものけくものありいづれもある心をも男の子
すめめのけくもの完全なけくものあり

木瓜三章

人との恵けりて我の恩
けくもの返報するもの恩

好むものありけくものあり

投我以木瓜報之以瓊瑤匪報也永

以為好也

是凡世の中の事の時節と志氣
とんよりて一介の惠賜といふもの

分るもの返報はけくものありけくものありけくものあり

あるもの返報はけくものありけくものありけくものあり

あるもの返報はけくものありけくものありけくものあり

あるもの返報はけくものありけくものありけくものあり

王一の六

黍離三章

彼黍離離のあき彼稷之苗のこめ行邁のゆく靡靡のしな揺揺のゆ知者のしる我心憂のこころ謂のい我のわが知のしる不者のしる我何のわが求のもと謂のい悠悠のしな蒼天のあか此何人のこゝろ哉のや彼黍離離のあき彼稷之穗のこめ行邁のゆく靡靡のしな揺揺のゆ知者のしる我心憂のこころ謂のい我のわが知のしる不者のしる我何のわが求のもと謂のい悠悠のしな蒼天のあか此何人のこゝろ哉のや

○王二之六

子子

黍離三章

黍離三章
周の大夫役所を去るの如く
舊都を去るのむづかる
風影とならむ當時天子
の衰微をよそとるしめり詞あり

彼黍離離。彼稷之苗。行邁靡靡。中心
搖搖。知我者謂我心憂。不知我者謂
我何求。悠悠蒼天。此何人哉。

周（しゅう）へ（い）りて同望（どうぼう）バ宋（そう） 唐（たう）宮殿（きうてん）樓閣（ろうかく）の跡（あと）もな
 く田畠（でんぱつ）とありて只稷（しやく） 黍（ち）をどさうりよ生長（せいしやう）して
 その穂（ほ）離（はな）れどもうもり又（また）苗（ひこ）のひいで（い）りもた
 りども昔（むかし）とおもひわかれようきく道（みち）の行邁（かうまい）
 も靡（し）れて心の中（こころのちゆう）うくく揺（う）れておろへぬ我（われ）こそ
 と察（さつ）知（ち）しその君（きみ）とありの憂（うれ）とてささくらのわ
 りまうと知（ち）べけれど心とちぬあゝ何（なん）とこゝろ
 空（そら）よ蒼（そう）々としてちりちり天道（てんたう）やと能（よ）く思（おも）ひ
 づゝありやうふ迄（いた）てうへへうと何人（なんにん）の所思（しゆし）
 ぞありやと

○彼黍離離○彼稷之穗○行邁

三

とんざん
兎爰三章

とありあやぐ
鬼有爰爰あり
ミヤトらより
雉羅于離る我
うまれ のうゑなぞ
生し之初尚為
あしきこと
こと無我生し之
のうゑなぞ
後此百羅は逢
ふべき
尚云寐て吼と
うら
無ん

兔有爰爰とちぢぢ
雉けし掌て于に離はな我われ

生うまれ之の初はじめて尚なほ造つく
と無な我われ生うまれ之の
のち後のち此こ百ひゃく憂うれ逢あ達たつ
なほ尚なほ云いふ寐ねて覺さ
と無な人ひと
と鬼おに有あ爰こゝ爰こゝ之の
うし雉うし置お于に離はなる我われ
うし生うまれ之の初はじめて尚なほ庸よう
と無な我われ生うまれ之の
のち後のち此こ百ひゃく凶きよう逢あ達たつ
なほ尚なほ云いふ寐ねて聽き
と無な人ひと
なほ葛くわ藟らい三さん章しやう
くわ縣けん縣けん之の葛くわ藟らい
のち河か之の許もと在あ終はつ
ふ兄あに弟てい之の遠とほ之の

鬼爰三章

鬼爰三章
小人僥幸と得て禍青との憂
れ君子いふ以て多くの憂
ふらとふらう世をうへて
びくのたふしとくも

有^レ鬼爰爰雉離于羅我生之初尚無
爲我生之後逢此百罹尚寐無吽本鬼
とらんとも羅爰々とももの如へきさうずくめて雉きうて
わくにうまう 雉いみふね正しきそのゆゑ君子
よはにうらりともく我生一との初ハ世の中いづ
くも無事無為なり其後ふつたりてふ百の
羅は逢ふともるう尚ふるその時節ふたみ
のふは疾があつく死するいと勝たることあり
静かにして吽しものなまじやうふともるう ○

有兔爰爰雉離于罟我生之初尚無

造我生之後逢此百憂尚寐無覺

何も木と以て張るをみたり造るとも世のやうに
 ともなく無造作なるも一とたり憂へるも一とたり
 寛くともうて静く世と
 送るも一とたり
 ○有兔爰爰雉離

于置我生之初尚無庸我生之後逢

此百凶尚寐無聰
量と心庸なり

葛田三章

葛藟三章

他人と父と謂
他人と父と謂
他人と昆と謂
他人と昆と謂
兄弟遠る
兄弟遠る
河之溪入在終
河之溪入在終
縣縣葛藟
縣縣葛藟
莫亦我有とする
莫亦我と聞と

米葛三章
彼葛と采兮一
日見不兮三月
の如し兮

彼蕭と米（今）一
 日見不（今）ハ三秋
 の如（今）一
 彼艾と米（今）一
 日見不（今）ハ三歳
 の如（今）一

大車三章

この詩は女メの
詞なり淫行不正のもの

將仲子兮。無踰我里。無折我樹杞。豈

敢愛之。畏我父母。仲可懷也。父母之

ゐ心こころの女おんないつるふひてへ君きみ
 うらとほのしとふれども今

我里間一踰

杞^{やう}と愛^{あい}していつ^{いつ}ず我^{わが}父母^{ふぼ}の知^しと畏^{おそ}るより惡^{わる}の事^{こと}とも思^{おも}ふも父^ふ母^ぼのとも又^{また}畏^{おそ}ぬりたり

仲子ちゆうしの字なちうり
○
將しやう仲ちゆう子し今こん無む踰ゆう我が墻かう

無折我樹桑豈敢愛之畏我諸兄仲

可懷也諸兄之言亦可畏也○將仲

子兮無刺我園無折我樹檀豆敢愛

之畏人之多言仲可懷也人之多言

亦可畏也

他人の言ふを聞きと同意を言ふ

叔于田三章
鄭の共叔段と云ふ詩を稱

鄭の交接と緦の賁美くいふもの

叔于田巷無居人豈無居人不如叔

也。洵美且仁。
叔と贊といふるなり
叔の田より

10

叔于狩叔于狩也飲酒無飲酒無也豈飲豈飲也也也如如也不不也美且好美且好也

叔適野叔適野也卷無服卷無服也馬馬也也也如如也不不也美且武美且武也

大叔于田大叔于田也三章三章也

叔于田叔于田也乘馬執轡乘馬執轡也如組如組也兩驂兩驂也如舞如舞也

叔在叔在也數火烈數火烈也具舉具舉也禮禮也楊楊也暴暴也虎虎也將將也叔叔也無無也狃狃也戒戒也其傷女其傷女也

黃兩服黃兩服也上上也襄襄也兩驂兩驂也鴈行鴈行也叔在叔在也數火烈數火烈也具揚具揚也叔叔也善射善射也忌忌也又良御又良御也忌忌也抑抑也縱送縱送也忌忌也

叔于狩叔于狩也飲酒無飲酒無也豈飲豈飲也也也如如也不不也美且好美且好也

飲酒豈飲酒豈也無無也飲酒飲酒也不如叔也不如叔也也也如如也不不也美且好美且好也

叔適野叔適野也卷無服卷無服也馬馬也也也如如也不不也美且武美且武也

也也如如也不不也美且武美且武也

大叔于田大叔于田也三章三章也

義義也上上也同意同意也叔叔也不不也能衆人能衆人也

叔于田叔于田也乘馬執轡乘馬執轡也如組如組也兩驂兩驂也如舞如舞也

叔在叔在也數火烈數火烈也具舉具舉也禮禮也楊楊也暴暴也虎虎也將將也叔叔也無無也狃狃也戒戒也其傷女其傷女也

所將所將也叔叔也無無也狃狃也戒戒也其傷女其傷女也

兩驂兩驂也馬馬也如如也不不也美且武美且武也

如如也不不也美且武美且武也

叔于田叔于田也乘馬乘馬也

黃兩服黃兩服也上上也襄襄也兩驂兩驂也鴈行鴈行也叔在叔在也數火烈數火烈也

具揚具揚也叔叔也善射善射也忌忌也又良御又良御也忌忌也抑抑也縱送縱送也忌忌也

抑抑也縱送縱送也忌忌也

抑抑也縱送縱送也忌忌也

清人三章

清人三章

上雁の行の如しとあり
 駢も良御ありありといふ
 駢と磨控ありといふ
 失て送ゆくあり
 叔子田来来鵠兩服齊
 首兩駢如手叔在藪火列具阜叔馬
 慢忌叔發罕忌抑釋抑忌抑警弓忌
 知も罕も發て行列とのみしあり
 抑矢筒の

清人彭小在駟
介旁旁旁二
予重英河上乎
翱翔

清人消小在駟
介塵塵二
重喬河上乎
逍遙

清人軸 在駒
介陶陶 左

經典餘師

詩經卷之二

三

清人在彭駟介旁愛予重英河上
手翱翔何の詩高克高克とて軍役として
何の用事なく歸るなり
只人衆とつれて遊くらんとす
今居如るり召つれしもの鄭の清とて邑
の人衆なり旁々介駟のしをまゐる見
高克が軍器物として二の予は赤羽英と重
て河の上と翔翱あるなり定て
るなり各々離散なり

消駒介麿麿予重喬河上乎逍遙
消の地も河の上ふあゝあり麿々へありとあり
喬ハ我の上すなりーをうり逍遙といふも遊に
上と同意の詞なり○清人在軸駒介陶陶

中軍好と作

三章

焦喪濡ふ如
洵ふ直且侯彼
其の之子命ふ
舎て渝ら不

羔裘豹飾ろふきうひょうしと孔こう
 武ぶく力ちから有あり彼かの
 其その之の予よ邦くに之の
 司直しちく

美裘晏兮三英
繁兮彼其之子
邦之彥兮

遵大路二章

大路ふ傳つて
 今子之袿を摻
 執兮我と思ふ
 無れ兮故ふ
 定やんぜ不也
 大路ふ傳つて
 今子之手と摻
 執兮我と魏

經典餘師

左旋右抽中軍作好

馬と引旋ひまわり右ふかみぎふかと
旗本はたもとの容ゆる白しろと作好しやうこう
いりこぬまうり
中戦なかつまの

聖武集

ふ時^{とき}賢^{けん}徳^{とく}の大^{だい}夫^ふ
わ^わり^りと^とわ^わり^りと^と詩^しなり

羔裘如濡洵直且侯彼其之子舍命

不_ハ渝_ハ

大夫の衣服ハ羔羊の喪衣ナリ 羔羊
ハ毛色濡しく且みずぬありけり云々

大夫の徳ふ稱し衣服なりとも彼其大夫の海
 は正直なり侯美さ為人なりえり巴の分
 服と執守て身と天命ふ安處てす
 氣と渝となくとも義は依て一命と惜し
 之子とふ
 大夫とふ
 ○羔裘豹飾孔武有力彼其
 羔の衣服ふ豹の皮の袖飾
 之子とふ邦之司直
 とつてとつてとつて武と

之子邦之司直

黒の衣服くろのふくふ豹ひょうの皮かわの袖飾そでかざり
とてとてとてとて武ぶしと

直とわくむくはれり
 大徳の直なり
 直と司とる

○ 羔裘晏兮。三英粲兮。彼其之

子邦之彦兮

三
 焦裘の色暁
 の徳英て榮
 榮るやけり

今人々を邦の内へそ
 入るべし

遵大路章

婦人貞正を以て夫を棄てられ後悔するの詞

遵大路兮。摯執子之祛兮。無我惡兮。

不寔故也

婦人家と立出たりて大路
よりくろが夫の袂と摺り

必^{かならず}後^{あと}までもふく悪^{あく}の^を人^{ひと}を^をた
 故^{ゆゑ}き^こら^らな^なま^まあ^あり^りに^にう^う、^{また}違^{ちが}ひ^ひを^をて^ての^のこ^ころ^ろに^に
 人^{ひと}情^{じやう}く^くい^いら^らず
 〇 遵^{そん}大^{だい}路^ろ今^{こん}摎^{じゆ}執^{しつ}子^し

○遵大路兮。摯執子リ手ヲ

詩經卷之二

今好と寔すふ
不也

女曰鷄鳴三章
女曰鷄鳴士

曰昧且子興
夜と視明星

將翔て鳥
鴈與と也

子加子與之
言ふ酒と

子之之來
之之之順

之之之順
之之之順

之之之順
之之之順

之之之順
之之之順

之之之順
之之之順

有女同車三章

經典錄師

之手今無我醜今不寔好也
醜も醜

女曰鷄鳴三章

夫婦ともに賢く相

女曰鷄鳴士曰昧且子興視夜明星

有爛將翔將翔也鳥與鴈

之與子宜之宜言飲酒與子借老琴

瑟在御莫不靜好

之來之雜佩以贈之知子之順之雜

佩以問之知子之好之雜佩以報之

有女同車三章

有女同車三章

賢なうと妻しと

寺經卷之二

三十一

女有行と同意
顔とて舜英の
如し將翱將翔
將翱將翔玉將
將之彼美也
孟姜德音忘
ん不

山有扶蘇二章

山ふと扶ふと有あり子こ都と
 見み不ふ乃なり狂きやうと
 見み不ふ乃なり狂きやうと
 見み不ふ乃なり狂きやうと

山^{やま}上^{うへ}橋^{はし}松^{しょう}有^あ隱^{いん}
 遊^{ゆう}龍^{りゅう}有^あ子^こ充^{ちゆう}
 見^み不^ふ乃^の校^{がう}
 童^{どう}と見^み

て辭と國人皆

有女同車顏如舜華將翔將佩玉

瓊瑤彼美ヨシキ 玉姜洵美ヨシキ 且都ツキヤ
予の國に女

嫁娶とては親迎の礼として婿親自ら迎へて迎へてくるなり依ていふと一迎へて同車としてくるなり女子の顔色よくきし華花のようなく衣服の翩翩風よくびくたりと夫のくちらず身よ佩玉の瓊瑤まじりの鳴節よくひていと美しく洵と都なりと孟と長好とてく妻の齊の姓なり瓊瑤と玉の別名なり

○有女同行顔如舜英將翔將翔佩玉將將彼美孟姜

德音不忘

英は玉の鳴なり将々玉の鳴なり德音は賢徳の人の詞なり

有女同行顏如

舜英將翔將翔佩玉將將彼美孟姜

德音不忘

ちりつちりつでも忘^{わす}れ^れてくさくの賢女^{けんなん}い

山有扶蘇二章

鄭の太子忽（あやふ）人とならうと用ゝと當不と

山有扶藎ニ隰有荷華ニ不見子都ヲ乃見

狂旦
山の高如く扶蘇の華を扶蘇と云ふなり

とてふより上より人より下より君子より小人
中々子都の如き人に見えなくして氣の狂ひ

なるを^い見^みる^る都^とい^いる^る今^け
 らと^いふ^ふ子^この^の男^{おとこ}と^いふ^ふ子^この^の男^{おとこ}
 ○山有

橋松隰有游龍不見子充乃見校書

山は橋を渡りて松の下の人の思ひ渡りて
たゞと濕りて游曼龍草のうへに人よりきく

君の心もいふ臥下もすべし
令とらやふもいふとの令す

釋シ今イマ釋シ今イマ風フウ其ソノ吹フク女メ叔シヨウ今イマ伯ハク今イマ倡ハハ予カ
 和ワ女ニ 木葉の釋今くはくしうにきよめ風ふ
さちうさんしんていぢれふにふ又勢か

上の女を漂の字とつゝ
下の女は君とつゝをうり
○穢ハナサシ々穢々風具
漂ラ女ヲ叔ハ兮伯ヲ兮倡ハナサシ丁ヲ要ヲ女ヲ
の意ちり

君より權威の臣に委任して
賢臣とてりてみえたりとて

彼狡童兮。不與我言。今維予之故使
我不能餐食兮。

狡童ハ君と云ふ。予の君の心ゆくともくざる智を以て

食兮維予之故使我不能息兮
彼狡童兮不與我

褰裳二章

子惠思我 褰裳涉溱 子不我思 豈無他人 狂童之狂也且

子惠思我 褰裳涉洧 子不我思 豈無他士 狂童之狂也且

丰四章

子之丰兮 我乎不送 巷之俟兮 予之不悔

子之昌兮 我乎不將 堂之俟兮 予之不悔 錦之衣兮 褰裳涉溱 衣之錦兮 褰裳涉洧 伯兮 予之駕與 予之行

經典餘師

褰裳二章

我と棄ん 定ん 人の 戯 詞

子惠思我 褰裳涉溱 子不我思 豈無他人 狂童之狂也且

我褰裳涉洧 子不我思 豈無他士 狂童之狂也且

丰四章

世に於て 昏姻の道 違變や 心と

子之丰兮 我乎不送 巷之俟兮 予之不悔

子之昌兮 我乎不將 堂之俟兮 予之不悔 錦之衣兮 褰裳涉溱 衣之錦兮 褰裳涉洧 伯兮 予之駕與 予之行

裳叔兮 伯兮 駕予與行

詩經卷之二

三十四

錦と裳と衣と
裳と衣と衣と
裳と衣と衣と
裳と衣と衣と
裳と衣と衣と
裳と衣と衣と
裳と衣と衣と
裳と衣と衣と
裳と衣と衣と
裳と衣と衣と

東門之墀二章

東門之墀如蕙
阪在其室則
邇其其人甚
遠

單の装衣と被り此衣服とのひて美麗なり
といふ衣と裳とを分りすでそなり衣といふ
帯は上の名なり裳は帯より下とすこの詩の
心は前日の我衣裳万事のふざりし故に約と
いふけり今すでよとのり車駕にて押さるる
與て行て嫁すべしとあり叔伯の男子の字あり
裳錦装裳衣錦装衣叔今駕予
與歸
家と歸しつゝ女子の夫の
家とすれはなり

東門之墀二章

東門之墀如蕙在阪其室則邇其人

甚遠
城の東門ふ墀と土と高く築き壇
のとなりたる如く此を思ひ人の住如るその
げりたる如く此を思ひ人の住如るその

室邇
相見の難と以て其人
意

東門之栗有踐家室豈不爾思子不

我即
建路の家室なりその中に住むとく
我爾と思ふも爾我に即

我爾と思ふも爾我に即

風雨三章

世にこれ道おほくはて嘆息
賢徳の君子と

風雨凄凄雞鳴喈喈既見君子云胡

不夷
暗夜に妻々雨は風はききと雞鳴の時
のやんよたんとの中といふ雞鳴の時

不夷
暗夜に妻々雨は風はききと雞鳴の時
のやんよたんとの中といふ雞鳴の時

不夷
暗夜に妻々雨は風はききと雞鳴の時
のやんよたんとの中といふ雞鳴の時

風雨瀟瀟雞鳴膠膠既

見君子云胡不瘳

風雨晦晦雞鳴不已

既見君子云胡不喜

子衿三章

青青子衿悠悠我心

縱我不往子寧不嗣音

既見君子云胡不喜

子衿三章

青青子衿悠悠我心縱我不往子寧

不嗣音

既見君子云胡不喜

子衿三章

青青子衿悠悠我心縱我不往子寧

不嗣音

既見君子云胡不喜

子衿三章

青青子衿悠悠我心縱我不往子寧

不嗣音

既見君子云胡不喜

子衿三章

青青子衿悠悠我心縱我不往子寧

青青子衿悠悠我心

縱我不往子寧不嗣音

既見君子云胡不喜

子衿三章

青青子衿悠悠我心

縱我不往子寧不嗣音

既見君子云胡不喜

揚之水東楚終鮮兄弟維予與
 不終予兄弟
 鮮維予兄弟
 與人之言不信
 與人言不信
 女無信人言人實不信
 揚之水東楚終鮮兄弟維予與
 不終予兄弟
 鮮維予兄弟
 與人之言不信
 與人言不信
 女無信人言人實不信

出其東門二章

揚之水不流東楚終鮮兄弟維予與
 女無信人之言人實不信
 ○揚之水不流東楚終鮮兄弟維予
 予二人無信人之言人實不信
 予二人無信人之言人實不信

出其東門二章

俗の時直に風俗よんで流蕩る

其東門有女如雲雖則如雲匪我
 思存縞衣綦巾聊樂我員
 其東門有女如雲雖則如雲匪我
 思存縞衣綦巾聊樂我員

員

其東門有女如雲雖則如雲匪我
 思存縞衣綦巾聊樂我員
 其東門有女如雲雖則如雲匪我
 思存縞衣綦巾聊樂我員

經典餘帛

出其東門有女如雲雖則如雲匪我
 思存縞衣綦巾聊樂我員
 出其東門有女如雲雖則如雲匪我
 思存縞衣綦巾聊樂我員
 出其東門有女如雲雖則如雲匪我
 思存縞衣綦巾聊樂我員

寺經卷之二

意にあらざるの
帽中より

世に
約ち
ち
その
散ち
ち

時^{とき}に
會^{あひ}て
懽^{よろこ}
悦^び
と
の
づ
ら
に
通^{とほ}
る

願ねがひふふ通とほふふ今いま解と逅と相あ遇あてて我われ

相見の風景と

のべつゝ一たり蔓延草と雪の露の零つて野の
風情と二月の比とよりなり時と美麗く清揚

野蔓草有零
露漙漙兮美

野有蔓草野に蔓草の生るる采芣苢采むるは芣苢路溱溱路は溱溱と名

相遇あひまひ子與偕ことも清揚通きよよう

有美一人婉如清揚邂逅相遇與予

偕臧

瀼々も露おぬき魚あがり上と同意こそ
皆心と滅くぞあはれとあり

漆洧二章

秦と消ゆる川の川野の国より
あつゝの詩も上の意よめる

秦と有い與と方きふ

又、兵部へいぶの事や、あ靜しやうの事

漆與洧。方渙渙兮。士與女方秉蘭兮。

女曰觀乎士曰既且且往觀乎消之

外洵詩且樂維士與女伊其相讓贈

仲春の水と氷四の

藥之以贈之

女^をの^を游^をゆ^をり^をる^をり^を 詩^をの^を心^をな^を女^をへ^をる^を 往^をて^を遊^を觀^をや
と^を士^をう^をと^を既^をる^をる^を往^をより^を 詢^をと^を許^をと^を樂^をと^を

溱與洧與瀏瀏其清矣士與
 女與殷其清矣士與女與
 且往既且往既且往既且往
 計且往既且往既且往既且
 將謂之伊其將謂之伊其將
 贈之以芍藥以贈之以芍藥
 以贈之以芍藥以贈之以芍藥

溱與洧瀏瀏其清矣士與女與
 且往既且往既且往既且往
 計且往既且往既且往既且
 將謂之伊其將謂之伊其將
 贈之以芍藥以贈之以芍藥
 以贈之以芍藥以贈之以芍藥

詩經卷之三終

